

港南造形タイムズ

第59号

授業レポート 美術美学史演習

— 今回のレポーターは2年生の稲田今日子さんです—

法隆寺での授業紹介です !!



5月14日美学美術史演習で奈良の法隆寺に行ってきました。

私たちは週に2時間の授業で一カ月ほど仏教について学んできました。仏教の始まりや仏像の様式など様々なことを詳しく調べ、あらかじめ知識を得た上での法隆寺見学だったので、今までと違った見方で拝観できたのではないかと思います。南大門から五重塔、金堂、大宝蔵院、夢殿まで周ることができ、教科書やスライドで見た仏像や壁画を間近に見る事が出来ました。先生方の解説もあり皆忙しくメモを取りながらも楽しそうでした。奈良に行くまでの道りはとても遠く暑かったのですが、お寺は大変涼しく落ち着いて見る事が出来、とても貴重な経験となりました。

指導：島香織教諭・水沼純一教諭

ここで法隆寺について

法隆寺は1993年にユネスコの世界遺産（文化遺産）に登録されています。もちろん建造物が有名ですが、飛鳥・奈良時代の仏像や工芸品など、とても多くの国宝や重要文化財を所有しています。

✿メモ1

法隆寺は用明天皇が病氣平癒を祈願してお寺と仏像を造ることを請願されたことに端を発していると伝わっています。607年に推古天皇と聖徳太子が用明天皇のご遺志を継がれて、お寺と本尊（薬師如来像）を造られたのがこの法隆寺だそうです。



✿メモ2



法隆寺には多くの建造物とともに仏像や絵画、そして工芸品など数えきれないほどの国宝や重要文化財があります。日本美術なら仏教、西洋美術ならキリスト教といったように宗教の関わりを学ばなくては、造られた目的やその当時の人々の願いや理想などが十分に理解できません。ぜひ、美術をとおして知識の幅を広げてください。

仏像だって造られた時代によって顔が変化していますよ、と世界史や美術史で学びましたね。その当時の人々の嗜好がこれらをとおして窺い知ることができるのです。本当に奥が深く面白く美しい世界ですね。

*代表的な仏像や絵画・工芸品は法隆寺に関するHPなどで調べてください。
港南タイムズへの写真掲載は、著作権の関係で遠慮させていただきました。

✿校長メッセージ1

みなさん、1400年以上もこのお寺や仏像・工芸品がどのように残されてきたと思われませんか。

まず1400年もの長い時間、この建造物はどのようにして守られてきたのでしょうか。まさか自然に残っている、なんてと思う人はいないでしょう。そう、多くの人たちがきっちりと、今風に言えばメンテナンスをして守ってきたのです。

私は、昭和の大修理が1933年から1953年の20年間にも及んで成し遂げられ、創建時の伽藍に近い姿に復元されたということを知り感動したものです。興味のある人は、その大修理に携わられた法隆寺の宮大工として伝説的な人物、西岡常一さんについても調べてみてください。



刻字作品「三余」

✿校長メッセージ2

知識の連鎖ほど楽しいものはないと思います。

私は、書道を教えてきましたが専門は漢字の行書・草書です。授業で板に文字を彫って拓本をとらせようと思って刻字に興味を持ちました。でも、拓本より板に文字を彫ること自体が面白くなって、ハマってしまいました。

いろいろな木材を試してみて、もっと本格的に木の材質について調べてみることにしました。何冊もの木に関する本を調べている時に西岡さんという人物、そして西岡さんが手掛けられた法隆寺や薬師寺についても調べてみたいと思うようになりました。

そういった興味の連鎖が、私の刻字作品にどのくらい役にたったのかは分かりません。でも刻字から木材、そして宮大工から法隆寺や薬師寺、次に仏教美術へと興味を拡げていくという、興味や知識の連鎖は実に楽しいものだ、というメッセージをみなさんに送りたいと思います。

✿刻字作品「三余」について

まず「三余」とは、夜・雨・冬といった仕事（農作業）ができない3つの余暇という意味です。古い時代の中国では、天が与えてくれたようなこの余暇を無駄にせず一所懸命励みましよう、と諭している言葉なのです。

書齋に飾り、いつも学ぶことを忘れないように時間を大切にしたいと思って作りました。今は校長室に飾っています。

*「余」という文字は旧字体の「餘」を使用しています。

*ホウという木に彫り、胡粉を膠で溶いて着色しました。

